

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0193800083), 法人名 (株式会社 富川グロリアホーム), 事業所名 (こころのホーム ふれない), 所在地 (沙流郡平取町振内町31番地17号), 自己評価作成日 (平成30年3月12日), 評価結果市町村受理日 (平成30年4月10日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームを平取町で開設させて頂き5年目を迎えようとしております。「人材育成」に翻弄した1年。人を育てる事はたやすいものではない。採用、退職の経過の中で焦りや不安の胸中は隠しきれませんでした。改革！「人財」だ！人生の先輩を支える現在の仕事はいずれ我が身である。共に働く上で「こころのホーム」を知ってもらい「職場を選んで」もらう事。福祉業界で「介護」のみの業務ではない職場です。環境整備は、除雪から草刈り。毎週土曜日開催の介護予防教室は、職員も一役かいふまねっといストラクター資格取得者が実施。カフェ和花は、習字師範による手ほどきでみるみる上達されています。昨年4月に指定管理を任されて、来月1年を迎えます「生活支援ハウスきずな」開所当初より定員9名を継続させて頂いております。介護予防教室を実施している「コミュニティハウス こかげ」は、今後月に1度「こども食堂(仮)」を開催する予定です。職員会議がある曜日の放課後に宿題をしたり「語学塾」(英語・中国語予定)ボランティア講師は、利用者様と職員です。こかげの周辺を整備して夏はキャンプも出来そうです。ピザ窯もあります！生き物の声に癒され、無農薬栽培の野菜を食し快適な生活！年齢や障害の有無を問わず「共存」していく「こころの里」作りはまだまだ奮闘して参ります！

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL (http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action\_kouhyou\_detail\_2017\_02\_2\_kihon=true&JigyosyoCd=0193800083-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成30年3月28日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 1) ホームの環境: 振内小学校に隣接する自然豊かな場に、平屋建てのホームと通所介護棟、地域交流館が相互交流できる仕組みができている。また鶏舎と兎の飼育など、利用者に安らぎを与える工夫に努めている。
2) 職員の態度・姿勢: 利用者や家族の意向や要望に真摯な対応に努め、よく聴き、観察して、支援し、相談に応じている。これは事業理念を確かに捉える姿勢にも現れている。
3) 家族との満足: 家族の多くは職員の難しい仕事への対応ぶりや、要望や相談に対する傾聴の姿勢などに、安心と信頼を寄せている。
4) 運営推進会議の開催状況: 会議は定例に運営資料を開示して、行政、社協、地域関係者等が参加の下に協議され、其々の意見等を運営に反映している。
5) 地域関係者との連携: 町行政の支援と共に振内地域の住民組織の協力の下に(小学生や保育園児)の訪問など、ホーム事業への関心が高まるよう尽力している。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and user satisfaction.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・ミーティングの冒頭で提唱している。「良い介護」について根拠をもって実践している。	事業理念は「介護は我々を生き、成長させ、希望を与える」として、職員は理念の本旨を共有して実践的成果や資質の向上に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・町内会の会合へ参加(町内会費を収め)保育所の散歩コースに動物がおり声を聞けるきっかけで祭りへの踊りの参加あり。隣接する小学校は運動会へ応援や年に1度事業の一貫で施設訪問へ来てくださっています。	隣接の小学校の生徒や保育園児の行事や訪問交流、町内会の一員として年間の祭り等の交わり、共同経営の訪問介護と共に地域の支援を得た運営に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・「カフェ和花」は認知症カフェとしての活動しています。 ・介護予防教室の開催、地域の方々10~20人		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月に1度、家族代表を初め町内会長の参加で地域への協力を得られ避難訓練も運営推進会議の際に1度実施。	会議は定例に行政(福祉・消防等)、地域関係者(町内会等)、包括支援センター等の参加の下に意見や要望、改善事項の指摘を得て、運営に反映している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・地域ケア会議、定期的に訪問してくれたりわからない事は、保健福祉課係長へ相談を申し上げると的確な返答あります。	町行政はホーム設置の時点から支援にあたりと共に、地域ケア会議の開催や担当所管職員の訪問などでの示唆や情報交換を重ねている。入所者の立場での所管との指導も得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・夜間は、ユニットは夜勤者1名で宿直体制はありますがご家族の承諾を得ながら施錠はさせていただきます。	拘束の指定基準等については、資格取得の学習を進める職員も多く、拘束禁止の意義の本質を踏まえて、利用者個々の生活や心身の状況を損ねることのないよう留意して取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・心の病にならない防止策として月に1度当事者研究を開催しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・1名現在成年後見制度を申し立て中でありま す。職員も内情は把握済み。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得できる様に行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・定期的な訪問の際に、ご利用者様の近況をお伝えしております。	家族の訪問頻度は個々で異なるが、来訪時に日常生活状況を報告して意見を伺うなど、利用者や家族の意向に沿った運営が出来るよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・定期ミーティングや個別面談時に意見を伺う機会を設けています。	月例の定例職員会議等では職員としての基礎的知識・技術・経験を通して見解を述べ、利用者支援のための協議に努めている。また、個々の業務に対する目標や課題を明文化し、開示して相互の資質向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・処遇改善や職員が個別に目標設定して、その評価を実施して給与等に反映はしていません。労働時間等も個別面談時に必要に応じて配置転換等の配慮に心がけています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・本部主催の初任者研修初め実務者研修や喀痰研修等自らの意思により参加を申し出てケアの向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・他事業所の視察や研修等で意見交換、情報収集しサービスの向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・ICFのシートへ本人、家族、職員より情報を集約して安心してサービスを提供できる関係を構築している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ICFのシートへ本人、家族、職員より情報を集約して安心してサービスを提供できる関係を構築している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・ICFのシートへ本人、家族、職員より情報を集約して安心してサービスを提供できる関係を構築している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・ICFのシートへ本人、家族、職員より情報を集約して安心してサービスを提供できる関係を構築している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・ICFのシートへ本人、家族、職員より情報を集約して安心してサービスを提供できる関係を構築している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・ICFのシートへ本人、家族、職員より情報を集約して安心してサービスを提供できる関係を構築している。	職員は、入所以来の生活情報記録や分析資料の共有に努め、家族の訪問時を大切に安らぎと交わりを支援できるよう努めている。通所介護者とも交わりも大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・ICFシートを再構築していく中で、寂しさや不安を理解できてきて職員が全体像を把握した段階で受け入れケアプランの作成に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・契約の終了は、ご逝去が主です。葬儀の際に思い出の写真や動画をご家族様の了解を得られた時にパワーポイントで上映致しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・ひとりひとりの思いや希望、全体像を把握するのがICFのシートですので、職員で検討して本人の思いに寄り添える努力はしています。	利用者個々の生活や言動を通して、また家族からの聞き取りなどで利用者理解に努めて、その思いや意向に沿えるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・ひとりひとりの思いや希望、全体像を把握するのがICFのシートですので、職員で検討して本人の思いに寄り添える努力はしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・ひとりひとりの思いや希望、全体像を把握するのがICFのシートですので、職員で検討して本人の思いに寄り添える努力はしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・根拠を提示できる内容のICFシートを構築中で、ケアプランもモニタリングも都度変更し修正を行える様にしています。	日常のカンファレンス協議やモニタリングの経緯を職員相互が確認するとともに、専門職位と共に定例の見直し、変化に即応した介護計画の策定に職員全てが関わって作成し、家族の了承を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・ケアの記録はパソコンの「長寿」を活用しています。情報共有は業務日誌を印刷して日勤前に把握するように努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・入院され退院後の対応は、食に関する内容ひとつとっても出来る限りのサービスをさせて頂く努力はしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・ボランティアの協力で読み聞かせや習字、花の苗を頂いた際には利用者と一緒に植えています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・町内にある病院の診療所の医師に主治医を努めて頂き、訪問診療体制をして頂いています。	協力医療機関が限定的であり、個々の関係を大切にするとともに、町の診療所と連携して訪問診療体制を整えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・24時間連絡可能で常に相談、指示を仰いでおります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・地域ケア会議で看護師長も参加で常に情報を共有できる配慮をいただいています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・指針を説明して、終末期に関しては契約時にご意向をお伺いしてより信頼関係の構築で1年に2度確認をさせて頂く方針です。	重度化や終末期の対応協議は、入所時にその意向を確認している。個々の心身の状況に合わせて家族・医療機関等と具体的な対応にあたっている。看取りの経験もある。	入所時の意向把握に加えて、対応すべき時の協力医療機関と看護師等専門職の役割、また職員が対応すべき基本的な手続きや処遇についてのマニュアルを作成する等の検討を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・利用者の急変時は、各職員個人の携帯に町内の消防署へダイレクトつながる電話番号を登録して対応しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年に2度の避難訓練(日中、夜間)で火災や地震時の第一避難場所(屋外)、第二避難場所(役場)を想定しています。	年2度の想定訓練を実施している。運営推進会議等でも消防機関職員との協議を含むなど、連携が図られている。	想定災害は頻発する状況を踏まえて、所管行政と共に地域全体での防災計画と実践の在り方や、役割関係を共有・協議することを検討されるよう期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・接遇や身だしなみは新人研修で実施。	職員は事業理念の本旨の理解に努め、利用者個々の個別性を損なうことなく、安心と信頼の下に、その人らしい添い方に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・意思を組み入れ自分で決められる雰囲気心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	・出来るだけの希望に添える様に配慮をして無理強いのない生活を支えます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・普段からお化粧をされている方は生活のリズムを大切に支援しています。定期的な美容師さんに依頼してカットも実施。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・何より食事を楽しみにされていますので、野菜が取れる時は一緒に収穫をして支度の手伝いをしています。下膳や食器洗いやお盆ふきは日常の習慣でしています。	近隣の農家から野菜等の提供もあり、楽しく、美味しい食事作りに努めている。個々の心身の状況に応じた共同作業などをするなど、楽しいひと時を大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・嚥下や咀嚼にやや問題が生じてきている場合は、その方にあった形で提供。水分は嗜好に応じて対応。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後歯磨きの見守りや一部介助で実施しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・リズムを把握してさりげない誘導に心がけ出来るだけの自立(布パンツ)を支えています。	排泄の自立支援を基本に捉え、布パンツ等用具の選択などに留意して、個々の心身の状況やタイミングに留意した排泄支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・食物繊維の豊富な食材や腸内に優しいヨーグルトを毎食提供に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・個人の要望に添える配慮は最大限にしていますが、一週間に2度は入浴をして頂きたく声掛けを実施。	入浴時間はできるだけ利用者の都合に沿いながら、季節に応じた対応や個々の都合や意向を汲んで、週2回以上の入浴支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・個々の生活習慣やその時の状況に応じて、日中の活動を充実させ生活のリズムを作る考慮はしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・定期薬の処方箋を綴り管理して職員が確認出来るように配置している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・テレビ鑑賞や新聞購読は、個人の楽しみで。生き物の世話の餌やりや卵を持って来るなど役割で日々の生活にメリハリを付けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・家族の協力を得ながら、買い物(洋服)や食堂へ出かける機会は定期的を実施。	ホームが平家作りで開放的に作られており、敷地も通所介護事業を含み、広く、ベランダから外出できるような安心さや施設の中心に鶏舎や兎の飼育小屋に立ち寄れる環境にある。また食事や買い物の機会などを計画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・自らの電話の希望は叶えています。年賀状は毎年郵送されてくるのを楽しみにしていますが、こちらからの返信はできていません。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・四季を感じて頂く壁画を一緒に作成しています。行事では旬の食材を用いての食卓を彩っています。	ホームは平屋建て、開放的な広い敷地に恵まれている。居間と食堂とを離れにして、それぞれの場で憩える。温・湿度、採光等は管理されており、利用者作成の作品掲示や居心地の良い環境づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・リビング、ダイニングを分ける事でテレビを鑑賞される方、一人の時間を大切にされている方、職員と一緒にいる方と自由ですが居心地の良い居場所を提供しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・長年馴染みの家具やソファで本人の住み慣れた居場所に近い空間を提供するお手伝いや工夫をしています。	居室は清潔に整えられ、ソファや椅子が配置されており、自らのたたずまいや来訪客と共に過ごせる場等が配慮されている。また家族等の馴染みの写真記念品等を飾り、馴染みの日々を楽しめるよう家族とともに環境支援に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・トイレの場所やお風呂の場所、自分のお部屋が分かる馴染みののれんを設置してわかる工夫をしています。		